

ハーモニー

Harmony

第58号 2012年6月8日発行
日本養護教諭教育学会

Japanese Association of Yogo Teacher Education

日本養護教諭教育学会

事務局：〒448-8542

刈谷市井ヶ谷町広沢1

愛知教育大学養護教育講座
後藤研究室

TEL&FAX 0566-26-2491

振替口座：00880-8-86414

<http://www.yogokyoyu-kyoiku-gakkai.jp>

目次

新理事長挨拶	1
新理事抱負	2
学会設立20周年記念・第20回学術集会ご案内-第2報-	3
学会設立20周年記念事業について(ご案内)	4
トピックス：	
①中央教育審議会 教員の資質能力向上特別部会 「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合 的な向上方策について(審議のまとめ)」の概要	
②科学研究費補助金「系・分野・分科・細目表」 の改正について	4
私の県の「ここが特色」	5

「私の実践と研究」リレー・レポート⑩	5
特別寄稿：「フィジカルアセスメント」なる語の 使用について	6
2012年度「研究助成金研究」の経過報告	6
2013年度「研究助成金研究」の募集と第20回 学術集会での「投稿奨励研究」の推薦について	7
学会誌第16巻第2号への投稿募集	7
編集委員会委員の紹介	7
理事会等の活動報告	7
事務局より	8
編集後記	8

新理事長挨拶

さらなる学会の充実と発展を願って

理事長 三木とみ子(女子栄養大学)

今期の3年間本学会理事長としての任にあたることとなりました。

ご承知の通り、本学会は「全国養護教諭教育研究会」として1992年11月に設立し、その後の経過を経て、1997年「日本養護教諭教育学会」と改称され今年は20周年を迎えるに至りました。

この間、初代理事長堀内久美子先生はじめ、大谷尚子先生、天野敦子先生、後藤ひとみ先生の各先輩理事長の甚大なるご努力のもと学会は大きく発展して参りました。20周年を期に学術研究会としてさらなる充実と発展を目指すべく努力する所存です。

近年の社会の動向はめざましく変化しています。とりわけ昨年東日本をおそった巨大地震、大津波、原発の事故は子ども達の心身の健康はもとより子ども達の生活の安全安心の問題を引きおこしています。よって成長発達に関わる養護教諭の役割にますますの期待が寄せられています。本学会として、学会誌、学術集会

において、震災・原発事故と子ども達の健康への影響と養護教諭の果たすべき役割などを取り上げ、会員への意識啓発等の応援をさせていただきました。

さらに、昭和33年創設された学校保健法は50年ぶりに大幅改正され学校保健安全法(平成21年)とその名称を変え発出されました。またその基となった中央教育審議会答申(平成20年)では、養護教諭に学校保健活動の中核的役割やコーディネーターの役割等機能的な役割が提言されました。すなわち関係者を活かすべくその調整的役割機能が求められました。また、教員養成の修士レベル化等々大きな変化の時代を迎え本学会としても設立の目的を原点にしつつ、時代の変化に柔軟に対応する必要があります。

今期の学会事業は学会誌発刊が年2回となり、論文投稿の機会が多くなったことは会員の皆様の大いなる期待に応えられると信じています。さらに、「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集(第二版)」を発行します。

これらの事業の活動を通して会員の拡大を図りたいと思っています。目標1,000人を目指したいと願っています。役員一同、精一杯努力する所存です。どうぞよろしくお願い致します。

新理事抱負

会則第10条(5)の規定により、理事長は選挙で選出された理事の他に会員の中から理事を指名し理事会で決定することとなっています。この規定に沿って、現職養護教諭の補充、被災地への支援のあり方等の情報収集、学会誌年2回発行に伴う編集体制の強化などの観点から4名の理事が指名されました。また同条(6)(7)の規定により、常任理事4名、監事2名が委嘱されました。

■常任理事(学会活動担当) 後藤ひとみ(愛知教育大学)

二期6年間、理事長を務めさせていただきました。皆様のご支援とご協力に心よりお礼申し上げます。今期は、学会設立20周年を契機に学術団体としてのさらなる発展にむけて学会活動の活性化を目指します。今後とも、ご助言の程をお願い申し上げます。

■常任理事(総務担当) 下村淳子(愛知学院大学)

1997年に理事を拝命して以来、4期10年目となりました。これまでは事務局を長く担当していましたが、今期は総務を担当します。

皆様のご意見をいただきながら、魅力ある活動を目指していきますので、どうかご協力お願いします。

■常任理事(学会誌編集担当) 鈴木裕子(国士舘大学)

引き続き、学会誌編集担当常任理事を拝命しました。学会誌編集委員長として、昨年度実現した学会誌年2回発刊を軌道に乗せられるよう努力してまいります。

■常任理事(学術担当) 高橋香代(岡山大学)

学術担当常任理事として、研究助成金研究の選定や投稿奨励研究の推薦、また学術集会の支援活動等を通して研究活動の一層の推進を行います。

□理事(庶務担当) 安藤徹子(埼玉県坂戸市立坂戸中学校)

養成・行政・現職が三位一体となり、それぞれが役割を果たしていくことで、本学会がより発展していくことができると考えます。現職の立場としての視点を大切に、理事の職を務めさせていただきます。

□理事(会計担当) 池田みずゝ(長野県北佐久農業高校)

微力ですが、少しでもお役に立てればと思っています。他の理事の皆様の学会と養護教諭に向けた情熱を肌で感じ、私自身この仕事をする中で学ぶことが多くあると思います。本学会の発展のため、しっかりやっていきたいと思っています。

□理事(学会活動担当) 今野洋子(北翔大学)

今年度より理事として、日本養護教諭教育学会充実と、学会員の皆様のために、がんばりたいと思います。北海道の飛躍的な会員増を目指します。

□理事(学会活動担当) 入駒一美(岩手県教育委員会事務局)

東日本大震災では、多くの方々からたくさんの御支援をいただきましたことに感謝しております。今後ともお心を寄せていただければ幸いです。その被災地におります者として、養護教諭の役割等を考えてまいりたいと思っております。

□理事(渉外担当) 北口和美(大阪教育大学)

養護教諭は長い胎動時代を経て自らの学会を持ってから20年。教育改革の嵐の中で、受け継がれている確かな専門性と実践を深化させいくことが求められ、学会の責務も大きくなっています。学会運営に寄与できるよう頑張ります。

□理事(ハーモニー発行担当) 古賀由紀子(九州看護福祉大学)

編集委員会ハーモニー担当として会員の皆様からのご協力を得ながら、学会からの情報を発信していきます。

□理事(学術担当) 小林央美(弘前大学)

学術担当として、研究助成や投稿奨励等の活動から、会員の皆様のご協力のもと、学術活動の推進に力を尽くしたいと思います。よろしく申し上げます。

□理事(学会誌編集担当) 斉藤ふくみ(茨城大学)

この度理事を承り、編集委員会事務局を担当させていただきます。本学会も20周年を迎え、その歴史と責任の重さを感じますとともに、運営の一端に携わらせていただきますことに感謝しております。学会の“顔”としての学会誌のさらなる充実を目指して、学会誌編集の事務に尽力したいと思います。

新監事の紹介

高井聡美先生(関西女子短期大学)
沖西紀代子先生(東広島市志和中学校)



学会設立20周年記念集会・
第20回学術集会ご案内－第2報－

■テーマ：「職制70周年を経た今、子どもの健やかな成長を支える養護教諭の“力量”を究める」

■学会長：林 典子 東海学園大学客員教授
全国養護教諭連絡協議会顧問

■会 期：2012年10月6日（土）～7日（日）

■後 援：東海4県及び政令指定都市教育委員会
全国養護教諭連絡協議会
東海地区養護教諭研究会

■会 場：愛知県産業労働センター「ウィングあいち」
〒450-0002 名古屋市市中村区名駅4-4-38

■内 容：

【第1日 10月6日】

○学会設立20周年記念特別講演

演題「養護教諭の学校事故判例と救急処置を巡る法的諸問題」

キーストーン法律事務所 菅原哲朗弁護士

○学会長基調講演

演題「養護教諭、研究会、養護教諭養成の経験の中で捉えた養護教諭の力量」 学会長 林 典子

○シンポジウム

テーマ「養護教諭の資質向上・力量形成のために今すべきこと」

コーディネーター

東海学園大学客員教授 林 典子
女子栄養大学専任講師 大沼久美子

シンポジスト

大阪教育大学教授 北口 和美
前新潟県教育庁指導主事 波多 幸江
愛知県主任養護教諭会会長 北村 栄子
前静岡県養護教諭研究会会長 戸塚 豊子

【第2日 10月7日】

○学会設立20周年記念ミニシンポジウム

テーマ「歴代理事長が語る本学会のこれからの使命と期待」

コーディネーター 理事長 三木とみ子
(女子栄養大学教授)

シンポジスト

名古屋学芸大学教授 堀内久美子
聖母大学教授 大谷 尚子
前弘前大学教授 天野 敦子
愛知教育大学教授 後藤ひとみ

○ワークショップ

W1「危機管理における養護教諭の役割」

講師 前岡山大学教授 田嶋八千代
岡山大学准教授 上村 弘子

W2「実践的研究の進め方」

講師 茨城大学准教授 斉藤ふくみ
岐阜聖徳短期大学准教授 鎌塚 優子

W3「機能的な保健室づくり」

講師 名古屋市教育委員会指導主事 浅田 知恵
静岡市教育委員会指導主事 平山美奈子

W4「学校における医療的ケアの実際」

講師 愛知教育大学准教授 福田 博美
同 非常勤講師 藤井 紀子

○一般口演、ポスター発表、総会、祝賀会・懇親会、企業展示

○ランチョンセミナー 2セッション開設予定

【2日間共通】

○常設展示

- ・日本養護教諭教育学会のあゆみ
- ・養護教諭研究会活動
(全国養護教諭連絡協議会・東海地区養護教諭研究会)

■演題申し込み（口頭発表、実践発表、ポスター発表）

- ・演題締め切り 2012年6月30日（土）
- ・抄録原稿締め切り 2012年8月10日（金）
- ・申込はホームページの演題申込書（PDF）に必要事項を入力し、第20回学術集会アドレスに添付送信して下さい。

■参加申込方法

同封の振込票またはホームページの参加申込用紙（PDF）に必要事項を入力し、第20回学術集会アドレスに添付送信して下さい。

■参加費

8月31日まで（会員・会員外共通）	4,000円
9月1日以降（会員・会員外共通）	4,500円
学部学生（抄録集を含む）	1,800円
抄録集のみ	2,000円
懇親会	5,000円

■参加費の納入方法

〈振込先〉郵便振替口座

記号・口座番号 00820-2-207125

加入者 日本養護教諭教育学会第20回学術集会

※振り込みは9月27日までにお願いします。

〈事務局・お問い合わせ〉

愛知学院大学心身科学健康科学科 下村研究室

TEL：0561-73-1111（内線3423）

FAX：052-308-3428

第20回学術集会 URL <http://jayte20.agu.jp/>

E-mail：20ytgakkai@gmail.com

※20周年行事に関するお問い合わせは学会事務局（下記アドレス）にお願いします。

E-mail：JYTEjimu@yogokyu-kyoiku-gakkai.jp

学会設立20周年記念事業について —（ご案内）—

実行委員長 後藤ひとみ

日本養護教諭教育学会は、1992年11月に全国養護教諭教育研究会として発足し、今年に学会設立20周年の節目を迎えます。そこで、二十歳を記念して、これまでの足跡を振り返り、学術団体として充実した成人期となるよう下記の「学会設立20周年記念事業」を企画しています。「記念集会」は第20回学術集会と同じ会場で開催となります。是非、ご参加下さいますようお願い致します。

<事業内容>

1. 記念誌の発行

2. 記念集会の開催

①記念特別講演「養護教諭の学校事故判例と救急処置を巡る法的諸問題」の開催（菅原哲朗弁護士）

②ミニシンポジウム「歴代理事長が語る本学会のこれからの使命と期待」（仮題）の開催

③常設展示「日本養護教諭教育学会のあゆみ」

3. 学術集会における「一般演題の領域区分」の提案（学会HPに掲載）

4. 「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集<第二版>」の発行

<20周年実行委員会>

実行委員長：後藤ひとみ（第IV期・第V期理事長）

副実行委員長：三木とみ子（第VI期理事長）

顧問：堀内久美子（第I期理事長）、大谷尚子（第II期理事長）、天野敦子（第III期理事長）

実行委員：第V期及び第VI期理事、事務局長及び幹事

<20周年実行委員会事務局>

学会事務局が担当します。事業の詳細は学会HPをご覧ください。



トピックス

学会活動担当常任理事 後藤ひとみ

①中央教育審議会 教員の資質能力向上特別部会「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について（審議のまとめ）」の概要

本年5月15日に「審議のまとめ」が公表され、文部科学省初等中等教育局教職員課では6月5日までパブリックコメントを受け付けています。昨年1月31日に出された「審議経過報告」に意見を提出した実績から、本学会に対しても、意見があれば6月1日までに出してほしいとの照会がありました。

今回の「審議のまとめ」では、これからの社会と学校に期待される役割をふまえて、これからの教員に求められる資質能力として『学び続ける教師像』の確立が強調されています。また、理論と実践の往還による教員養成の高度化が求められており、当面の改善方策として、教育委員会・学校と大学の連携・協働による一体的な改革が謳われています。

改革の方向性では、「教員養成を修士レベル化し、教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」こと、「教員免許制度では一般免許状（仮称）と基礎免許状（仮称）の創設、専門免許状（仮称）の創設、多様な人材の登用、教員免許更新制の設計などを行う」ことが述べられています。

修士レベル化にかかわって現行の修士課程や専修免許状、現職研修のことなどにもふれていますが、主要な取組は教育振興基本計画に盛り込んで計画的に取り組むと述べています。

このハーモニーが届く頃にはパブリックコメントの提出期限を過ぎていますので、「審議のまとめ」に対する本会からの意見の詳細は学会HPでご確認下さい。

②科学研究費補助金「系・分野・分科・細目表」の改正について

平成22年8月27日を提出期限として行われた科学研究費の「系・分野・分科・細目表」への意見について検討していた科学技術・学術審議会学術分科会科学研究費補助金審査部会は、本年3月28日に平成25年度公募から適用する改正内容を決定しました。

詳細は学術振興会のHPから見ることができますが、本学会が要望した養護教諭を研究テーマとした際に申請先となる分科や細目の提案は反映されませんでした。10年後の改正にむけて、今後も細目やキーワード等の検討を重ねていく必要があります。関連の情報については適宜お知らせいたします。

～養護教諭の実践研究～

森川美奈子（財団法人熊本県学校保健会養護教諭部会
元副会長、熊本県養護教諭研究協議会元研修委員）

本県では、これまで県全体の研修会を6月と12月の年2回実施してきました。実践発表をもっと充実したものに、もっと日々の実践に密着した研修ができないかと思案し、講話のみでなく演習も取り入れた夏休みの1日研修を、平成21年度より始めることができました。

この研修会は、希望者による会費制の研修で、参加人数を150人程度とし、研修の企画・運営は「熊本県養護教諭研究協議会」の役員と5名の研究委員が中心となり実施しました。平成21年から平成23年の3年1セット（一つのテーマで継続した研修会）で参加型の演習を入れた研修としました。私はこの3年間の研修に携わってきましたので、このことについて簡単にご紹介します。

スーパーバイザーに、千葉大学教育学部教授の岡田加奈子先生を毎年お迎えしました。内容や参加者の1日の活動の様子も検討し、先生に御相談しながら、進行の精選まで検討に検討を重ねて実施しました。

1年目：会員が実際に書いた3つの抄録（論文）を読み合い、課題設定の仕方、実践の評価の仕方、実践のまとめ方について意見交換し、岡田先生には「実践のまとめ方」の講義及び解説をしていただきました。

2年目：1つの抄録について、最初に書かれたものと徐々に検討されたものを比べ、前年度に学んだ課題設定、評価、研究のまとめ方を学びました。

3年目：まとめの研修として、養護教諭の児童生徒の健康課題に対する体感（なんだか落ち着きがない・睡眠不足を訴える生徒が多いのでは？・けがが多くなったのでは？などの漠然とした気づき）を研究的な視点でまとめるという実践の流れを経験する研修をしました。架空の体感や実態を収集し、評価を見据えて実践計画を立てるまでのシミュレーションです。

参加者は学びたいという意思を持って、意欲的に参加し、ぎっしり詰まったタイムスケジュールで、頭脳の疲労感はピークになりますが、感想の多くから充実した研修だったことがうかがえました。

これからますます、健康課題が複雑多岐にわたっていくような状況があります。それらをまとめていくことは、お互いの実践から学び合う場を増やし、養護教諭の職務の充実にもつながっていくと思います。今後もこのような研修を継続して実施し、さらに充実していくことを願っているところです。

「学校給食を通しての健康教育」

大場祐子

（秋田市立太平中学校・前任校秋田市立下浜小学校）

平成20年の学校給食法の一部改正により食に関する指導の充実を図るため学校給食を活用した食育の推進が重点化されている。前任の小学校では、朝食は食べているが、栄養バランスの偏りや少量摂取のため、午前中に腹痛や体調不良を訴えて保健室を来室する子どもがみられた時、保健室では個別の指導を行っていた。そして、他の子どもたちにも元気とバランスのよい食事の関係について伝えるにはどのような手立てがよいか考えるようになった。平成22年度より給食主任（栄養職員未配置校）となり、学校給食を切り口に「望ましい生活習慣の確立」に取り組んだ。指導にあたっては、文科省の食に関する指導の手引や県教委や市教委、食育実践校の実践集を有効に活用したり、教育委員会や他校の栄養教諭に助言をいただいたりした。学年主任と内容を精選し、本来の保健室での職務に差し障りがでないよう気を付けながら、知識の習得から行動化、習慣化へ結びつけるため、継続した指導を心がけた。

給食の活用で良い点は、学級で子どもと一緒に給食を食べるので、学級および個々の実態や学級の環境を把握しやすい。毎日、給食があるので、指導時間を継続的に確保できる。計画の立案から評価まで、学級担任との打ち合わせの時間も取りやすい。家庭によって食事内容は異なるが、みんなが一緒に食べる給食は具体的に低学年からでもわかりやすく指導が進められる生きた教材であり、給食から食を通して健康の保持増進と指導・学習につなぐことができる。その他、給食試食会を、学校保健委員会と同日に設定することで、保護者が給食から健康の保持増進について学ぶ機会となるようにした。児童委員会は、年間を通して食と健康に関する活動を行い、主体的に活動する委員の姿や委員作成のアンケートやレシピを楽しみにしている他の子どもの姿がみられた。さらに、給食主任として給食の食材や施設設備の安心・安全や調理員の方の健康管理について毎日点検確認するようになったり、研修会に参加して衛生面について学んだりする機会が増えたため、以前に比べ衛生や安全な環境づくりにより目が向くようになった。

課題には、児童生徒数の減少に伴い小規模校が増え、養護教諭が保健主事のみならず給食主任を兼務することや、給食会計や発注などの校務分掌を担う機会が増えてきていることがあげられる。栄養教諭や栄養職員の適正配置や養護教諭が孤立しない校内体制の確立が望まれる。

..... 特別寄稿

本会名誉会員の杉浦先生からハーモニーへの投稿がありましたので、ご紹介します。

「フィジカルアセスメント」なる語の使用について

杉浦守邦（名誉会員・山形大学名誉教授）

まず以て日本養護教諭教育学会が隆盛に赴き、学会誌の発行が年に2回になったことに祝意を表したい。それにつけて、学会誌に登載される論文の記述内容について気になることがあるので、それを記してみたい。最近の養護教諭の救急処置に関連した論文に、「フィジカルアセスメント」という術語がよく使用されている。しかしその意味がどうも拡大されすぎているのではないかとと思われるが、どうであろうか。

フィジカルアセスメントとは、フィジカル physical（身体的）と、アセスメント assessment（査定とか評価という意味）を組み合わせたものであるから、身体検査という言葉に該当する。physicalには本来「自然な」「正常な」（生理的）という意味が含まれていて、physiology といえは生理学を意味し、abnormal な（異常な・病的な）身体は含まれていないと解される。

すなわち、本来のフィジカルアセスメントは人の生理的状態の評価を云うものであって、身長をはかり、体重をはかり、視力・聴力や体温・血圧・脈も見て、顔色から歯並び、食欲、運動状態等に注目するとともに、呼吸状態、心臓循環器の機能、腹部消化器の状態、意識脳神経機能などを調べ、正常に機能しているか（順調に発育しているか、日常生活に支障はないか）を評価することと解釈される。学校で行われる健康診断は、このフィジカルアセスメントの代表的なものである。養護教諭にとっては、このフィジカルアセスメント技術が職務上必須の技術であることは当然である。

しかし正常が失われた状態、すなわち「異常な・病的な」事態が発生した場面、とくに頭部外傷とか四肢外傷等の明確な救急処置を必要とする場面などにおいて、重症度・緊急度を判断するのに用いる検査をもフィジカルアセスメントと呼ぶのは行き過ぎではないかと考える。

こういうときの検査は assessment ではなくて examination である。病理的検査あるいは臨床検査（clinical or pathological examination）というべきであろう。主として外傷を念頭において、皮膚の損傷、出血状態、変色・変形などの存在を調べる「視診」、断裂、疼痛・圧痛などの存在と程度を調べる「触診」、異常音の存在、種類を調べる「聴診」、介達痛の存在を調べる「打診」などが必須の検査になる。

消防署の救急隊が災害現場に駆け付けてこれらを行うのを、現在ではまとめて「観察」「全身観察」と呼ぶ。緊急度・重症度の判断を第一の目的とし、5分間で Load and Go を達成するものであるから、視診が中心になるのは止むを得ないところであって、「観察」と呼ぶことに一理はある。救急隊の指針で「診断」という表現を避けたのは、このような行為を医師以外に認めないという慣習からと思われるが、現実に診断的行為によって重症度・緊急度の判断、搬送先の判断、応急的な処置内容の判断まで行っているのであるから、私は「救急診断」というような表現を認めてよいのではないかと思う。

この救急隊の検診に匹敵するのが養護教諭の学校内で行う救急時の検診である。私はこれも養護診断と呼ぶのが適当だと思っている。養護教諭が学校の現場で傷害にあった児童生徒に行うには特別な技術が必要であり、これをフィジカルアセスメント技術ではなく、養護診断技術と名付けるのがよいと思う。もともと養護教諭にとって生理状態を把握するためのフィジカルアセスメント技術は当然必要であるが、異常な状態、損傷状態や病的状態に対する検査法、養護診断技術の習得が今ひとつ必要ということになる。

生理的に正常であるかどうかを査定するフィジカルアセスメントの意味が拡大されて、異常状態を査定し重症度、緊急度の判断にまで使用する者が出てきたのは、フィジカルアセスメントに正常か異常かの限界を知ろうとする検査が含まれるからであろう。ここまでが正常、これを越えると異常とする検査がフィジカルアセスメントに必要であるのは納得できるが、異常状態が発生したとき、異常・病気の程度（重症か・軽症か）や段階について判断する検査までフィジカルアセスメントと呼ぶのは、拡大しすぎではないかと思うのである。むしろ単純に「検診」と呼ぶのが適当であろう。

2012年度「研究助成金研究」の経過報告

保健室の史的研究

一保健室におけるケアの機能の視点から一

竹下智美（一橋大学大学院社会学研究科）

この度、学会助成研究として本研究を採択していただき、誠にありがとうございます。

本研究は、学校における保健室の成立とその機能の変遷を明らかにすることを目的としています。とりわけ、その分析視角を保健室に関わる「空間」と「モノ」に焦点化し検討したいと考えています。学校保健活動は、他の教育活動よりも固有の「空間」や「モノ」がなければ実施自体が不可能であったり、円滑に実施できなかつたりする活動も多く存在します。すなわち、

「空間」や「モノ」を通して見る視角は、そこで行われている学校保健活動ないし「ケア」の内実を見るときに極めて有効であるといえるからです。

そこで、今年度は、第一の作業として、衛生室（保健室）、養護教員、学校衛生関係史料を収集しつつ、随時史料読解作業を進めてまいります。引き続き次年度は、上記作業と並行して結果の分析いたします。

会員の皆様のご協力とご支援を今後ともよろしくお願い申し上げます。

2013年度「研究助成金研究」の募集と第20回学術集会での「投稿奨励研究」の推薦について

学術担当常任理事 高橋香代

2013年度研究助成金対象研究の募集を開始します。研究助成金対象研究は、会員が自主的に応募する研究です。学会員の皆様には、ぜひ積極的にご申請をお願いします。

2013年度の研究助成金研究申請の締切は、2012年9月10日です。学会ホームページから申請書をダウンロードして、締切日までに学術担当理事高橋まで申請をお願いします。申請された研究は、理事会で選定基準に基づいて審議し、年次総会に提案して承認を受けます。選定作業は、会員資格、研究の目的・独自性、研究方法、助成金の用途など選定基準（2006年度総会承認）に則って行います。採択件数は2題で、研究助成金は1件10万円です。研究助成金を受けた研究は、その成果をハーモニーや学術集会及び日本養護教諭教育学会誌に発表することが義務づけられています。

第18回学術集会から発足した「投稿奨励研究」の推薦は第20回学術集会でも実施いたします。一般演題の中から投稿奨励研究が推薦されますので、会員の皆様には奮って演題発表をお願いします。

学会誌第16巻第2号への投稿募集

学会誌編集委員会事務局 斉藤ふくみ

養護教諭の資質や力量の形成及び向上に寄与する活動に関わる研究成果（論文）を募集しています。論文の投稿は年間を通して受け付けていますが、目安として第16巻第2号（2013年3月発刊予定）への投稿は2012年9月30日（日）必着とします。投稿される際には、投稿規定（学会誌第15巻第2号99～104頁）を熟読されて、十分推敲された原稿をご投稿ください。査読に大幅に時間がかかる場合は、次号以降に掲載が延期されることがありますのでご承知ください。なお、本年

度より編集委員会事務局は以下に変更になります。ご投稿および問い合わせはこちらにお願い致します。

<編集委員会事務局>

〒310-8512 水戸市文京2丁目1番1号
茨城大学教育学部教育保健教室
斉藤ふくみ

TEL/FAX 029-228-8298（研究室直通）

e-mail: fukumi@mx.ibaraki.ac.jp

※学会事務局とは異なりますので、ご注意ください。

編集委員会委員の紹介

学会誌編集担当常任理事 鈴木裕子

このたび編集委員会を改組しました。事務局を茨城大学の斉藤ふくみ理事のもとに置き、以下のメンバーで進めてまいります。ご協力をよろしくお願い致します。

*は編集委員会担当の学会理事。以下50音順（敬称略）。

編集委員長

* 鈴木 裕子（国土館大学）

編集委員

* 斉藤ふくみ（茨城大学）事務局
* 古賀由紀子（九州看護福祉大学）
大川 尚子（関西福祉科学大学）
岡本 啓子（畿央大学）
鎌田 尚子（桐生大学）
斎藤真佐乃（神奈川県立麻生養護学校）
鈴木 薫（就実大学）
中川 優子（藤沢市立藤ヶ岡中学校）
西 能代（京都市立北総合支援学校）
廣原 紀恵（茨城大学）
松田 芳子（熊本大学）
松永 恵（土浦市立中村小学校）
道上恵美子（埼玉県立草加南高等学校）
山崎 隆恵（神奈川県立綾瀬西高等学校）

理事会等の活動報告

前総務担当常任理事 山崎隆恵

2011年度の理事会・編集委員会の活動報告は次の通りです（氏名は50音順）。

☆理事会

1. 2011年度 第1回

日 時：2011年7月31日（日）10：00～16：30

場 所：名古屋市都市センター（名古屋市）

出席者：後藤、小林、鈴木薫、鈴木裕子、徳山、永田、三木（学会長）、山崎、吉田（欠席：下村、高橋）

内 容：「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について（審議経過報告）」への意見提出の報告、各業務の確認、2011

年度会計中間報告、学会活動委員会の活動報告、20周年事業について、第19回学術集会の企画と運営、2011年度総会準備、選挙管理委員会の業務進捗状況についてなど

2. 2011年度 第2回

日 時：2011年10月7日（金）14：30～17：15

場 所：女子栄養大学坂戸キャンパス（埼玉）

出席者：理事11名、今野監事

内 容：2011年度総会の運営及び議案確認、2011年度研究助成金対象研究の採択、プレ・コンGRESの進行確認、第20回学術集会・20周年記念事業進捗状況等

3. 2011年度 第3回

日 時：2012年1月9日（月／祝）

13：30～16：30

場 所：名古屋市公会堂（名古屋市）

出席者：理事11名、圓岡幹事

内 容：2011年度総会及び第19回学術集会の総括、2011年度事業の経過報告、投稿奨励研究の選定、HPのリニューアルについて等

4. 2011年度第4回及び2012年度第1回理事会

日 時：2012年4月15日（日）

10：00～12：30 第V期・第VI期合同理事会

14：20～16：00 第VI期理事会

場 所：名古屋市公会堂（名古屋市）

出席者：新旧理事18名、圓岡事務局長、大野幹事

内 容：●第V期（2009～2011年度）事業の総括と申送り、20周年記念事業と実行委員会体制
●第VI期理事会役割分担及び運営体制、2012年度事業について等

☆編集委員会

1. 2011年度 第1回

日 時：2011年4月3日（日）10：00～13：00

場 所：キャンパス・イノベーションセンター（東京）

出席者：大川、鎌田、斎藤真、斉藤ふ、鈴木薫、鈴木裕、道上、山崎（欠席：大塚、竹田、中川、松田）オブザーバー：後藤

内 容：2011年度編集委員会業務と役割分担、学会誌第15巻第1号の企画、ハーモニー第56号の企画等

2. 2011年度 第2回

日 時：2011年7月24日（日）10：00～16：00

場 所：キャンパス・イノベーションセンター（東京）

出席者：編集委員8名

内 容：日本養護教諭教育学会誌第15巻第1号の掲載原稿及び特集テーマ、編集作業の確認等

3. 2011年度 第3回

日 時：2011年10月7日（金）17：30～19：20

場 所：女子栄養大学坂戸キャンパス（埼玉）

出席者：編集委員7名

内 容：日本養護教諭教育学会誌第15巻第1号編集状況報告、第15巻第2号の編集日程、ハーモニー第57号の企画、「投稿のしかた」の検討等

4. 2011年度 第4回

日 時：2012年1月29日（日）10：00～17：00

場 所：キャンパス・イノベーションセンター（東京）

出席者：編集委員8名

内 容：日本養護教諭教育学会誌第15巻第2号の掲載原稿及び編集作業の確認、ハーモニー57号の準備状況等

◇この他、8月、9月、2月、3月に編集・校正作業のための小委員会を6回開催。

事務局より

事務局 長 圓岡和子（愛知県立三好高等学校）

この度、三木理事長から指名され、事務局長となりました。昨年度まで幹事をしてきた経験を生かし、幹事の方々や事務局員の方と運営していきます。本学会の会員は700名を超え、会員数増を目指していますが、たとえ1,000人になっても会員の皆様にご不便をおかけすることのないように努めていきたいと思っております。

事務局の仕事は、主に会員管理です。新入会受付、会費入金確認、会費未納者への請求、名簿変更手続きなどと、ホームページ管理、学会誌販売も行っています。何かお気づきのことがありましたら、メール等でお知らせください。

なお、幹事として、大野志保（愛知教育大学附属高等学校）会員、齋藤いずみ（横須賀市立浦賀中学校）会員、稲垣杏菜（愛知県立一色高等学校）会員の3名をお願いしました。

編 集 後 記

初めてハーモニー作成を担当しました。折しも学会創設20周年の記念すべき時にこのような機会を与えていただき感謝しています。これまでの「ハーモニー」を改めて見てみました。20年という歴史の中で、たくさんの方々の学会に対する思いが「ハーモニー」を奏でてきたのだと思いました。

今後も学会からの様々な情報を発信するとともに良い紙面作りに努力してまいります。

よろしく申し上げます。（K）